



冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定

初版:2018年7月10日

Cisco Vision Director は、Cisco Vision Director ソフトウェアを実行する 2 台のサーバ間で「ウォームスタンバイ」と呼ばれる環境をサポートします。この環境では、一方のサーバがプライマリ アクティブ サーバとして動作し、もう一方のサーバがセカンダリ バックアップ サーバとして動作します。障害が発生した場合は、バックアップ サーバをアクティブ サーバにするように設定できますが、フェールオーバー処理は自動的に実行されません。

目次

- 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に必要な前提条件(81 ページ)
- 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に関する制約事項(82 ページ)
- 冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーについて(82 ページ)
- スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法(83 ページ)
- プライマリ サーバをアクティブに復元する方法(88 ページ)

注:セカンダリへのフェールオーバー後にプライマリ サーバを復元するにはサービスの中断が必要になります。そのため、スケジュールされたダウンタイム中のみ実施してください。プライマリ サーバの IP アドレスを変更して、新しくアクティブになったセカンダリ サーバとのアドレス競合を解消するまでは、両方のサーバ間でバックアップのスケジュールを設定することができないので注意してください。復元後にテキスト ユーティリティ インターフェイス(TUI)を使用して、バックアップ/復元環境を再設定します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバのバックアップと復元\(69 ページ\)](#)を参照してください。

冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に必要な前提条件

セカンダリ サーバを昇格させてプライマリ アクティブ サーバにする前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- 両方の Cisco Vision Director サーバにログインするための物理コンソールへのアクセスまたは SSH クライアント (PuTTY など)が必要です。
- テキスト ユーティリティ インターフェイス(TUI)の使い方を理解している必要があります。詳細については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバのテキスト ユーティリティ インターフェイス\(93 ページ\)](#)を参照してください。メニュー項目を選択するには、メニュー オプションに対応する文字を入力し、Enter を押します。
- セカンダリ サーバでプライマリ サーバの正常なバックアップがあることを確認します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバのバックアップと復元\(69 ページ\)](#)を参照してください。
- Cisco Vision Director バックアップ サーバはプライマリ サーバと同じサブネット上に存在する必要があります。

- サーバではネットワークへの接続に Eth0 インターフェイスを使用している必要があります。
- プライマリ サーバとセカンダリ サーバの IP アドレスが必要です。

ヒント:TUI にログインするときに、サーバの IP アドレスが画面に表示されます。[TUI System Settings] > [System Information] メニュー オプションを使用して、サーバごとに /etc/hosts の情報を表示することもできます。

冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーの設定に関する制約事項

Cisco Vision Director サーバの冗長アーキテクチャには次の制限があります。

- Cisco Vision Director サーバ アーキテクチャでは、アクティブ サーバで障害が発生したときの自動フェールオーバーはサポートされていません。
- 環境によっては、手動のフェールオーバー プロセスが完了するまで 30 分以上かかります。
- また、手動のフェールオーバー プロセスの完了後、アクティブなイベントにいる場合はスクリプトのプッシュを実行してください。この処理は、導入の規模やコンテンツのサイズに応じて数分から 1 時間ほどかかることがあります。再度スクリプトのプッシュを行うとサービスが中断が生じます。

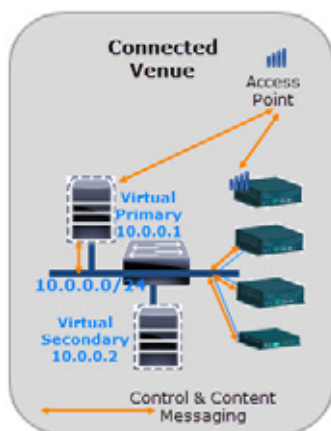
冗長 Cisco Vision Director サーバ間でのフェールオーバーについて

図 1 (82 ページ) は、通常のネットワーク状態と運用における Cisco Vision Director サーバの冗長性のアーキテクチャを示しています。プライマリ サーバとセカンダリ サーバは、Cisco Connected Venue (Connected Stadium) ネットワークの同じサブネットで 2 つの異なる IP アドレスを持つ独立したホストとして扱われます。

セカンダリ サーバは引き続きネットワークに接続していますが、通信と制御は、DMP を含めて、プライマリ Cisco Vision Director サーバとネットワークの他の部分との間でのみ行われることに注意してください。

セカンダリ サーバは、障害が発生した場合のプライマリのバックアップとしてネットワークに接続しているだけです。プライマリ サーバからデータを定期的にバックアップするように、セカンダリ サーバを設定します。

図 1 Cisco Vision Director 通常の動作における冗長性



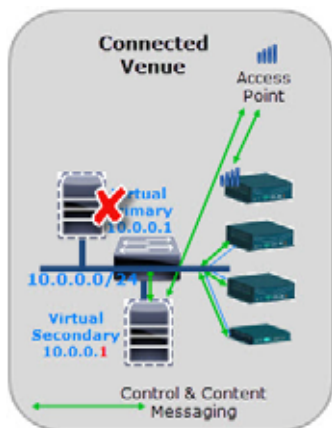
スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法

図 2 (83 ページ) は、プライマリ Cisco Vision Director サーバからの接続が障害を起こしたときの冗長環境を示しています。プライマリ サーバが障害を起こした場合は、手動のプロセスを通じて、バックアップからセカンダリ サーバを復元し、プライマリ サーバをシャット ダウンし、セカンダリ サーバをプライマリとして有効にする必要があります。

元のプライマリ サーバと同じ IP アドレスを使用するようにセカンダリ サーバを再構成する必要があることに注意してください。この例では、セカンダリ サーバの IP アドレスをプライマリ サーバのアドレスに合わせて 10.0.0.2 から 10.0.0.1 に変更しています。プロセスが完了すると、通信と制御は、新しく有効になったセカンダリ サーバとネットワークの他の部分との間でのみ行われるようになります。

注: ここでの「フェールオーバー」とは、セカンダリ サーバの自動有効化という意味ではありません。フェールオーバーのプロセスは手動です。

図 2 Cisco Vision Director フェールオーバーの動作における冗長性



スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法

このセクションでは、冗長サーバ環境において Cisco Vision Director サーバが障害を起こした場合、または Cisco Vision Director ソフトウェアのアップグレードの実行が必要になった場合に、実行する関連タスクについて説明します。これには、セカンダリ サーバを有効にして Cisco Vision Director の運用のためにプライマリ サーバの機能を置き換えるタスクが含まれます。

注: TUI のメニュー項目を選択するには、メニュー オプションに対応する文字を入力し、Enter を押します。

ここでは、次の作業について説明します。

- セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定 (84 ページ) (必須)
- バックアップ ファイルからのシステム データを使用したセカンダリ サーバの復元 (84 ページ) (必須)
- サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバのシャットダウン (84 ページ) (必須)
- セカンダリ サーバでのサービスのシャットダウン (85 ページ) (必須)
- セカンダリ サーバの IP アドレスの変更 (85 ページ) (必須)
- セカンダリ サーバでのネットワーク サービスの再起動 (86 ページ) (必須)
- セカンダリ サーバへのネットワーク接続の確認 (86 ページ) (必須)

スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法

- [スイッチの ARP キャッシュのクリア \(87 ページ\)](#) (任意)
- [セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director 再起動 \(87 ページ\)](#) (必須)
- [セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認 \(88 ページ\)](#) (必須)

セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定

セカンダリ サーバでのサービスの開始と設定を行う手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

2. [Cisco Vision Server Administration] > [Failover] サブメニューに移動します。
3. [Promote as Primary/Active] オプションを選択します。

Cisco Vision Director のサービスが開始され、再起動時に自動的に起動するように設定されます。

バックアップ ファイルからのシステム データを使用したセカンダリ サーバの復元

バックアップ ファイルからのシステム データを使用してセカンダリ サーバを復元する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して「セカンダリ」サーバの Cisco Vision Director にログインします。
2. Cisco Vision Director の UI で、[Tools] > [Management Dashboard] に移動します。
3. [Dashboard] ドロワーで、[Tools] > [Advanced] タブ > [Restore system data from backup] を選択します。
4. 復元するコンポーネントを選択し、復元に使用するバックアップ ファイルの日付を選択します。
5. [Apply] をクリックします。

復元が開始されます。復元プロセスが正常に完了すると、通知のダイアログボックスが表示されます。

6. 復元が完了したら、システムを調べてすべての処理が想定通りに行われたことを確認します。

サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバのシャットダウン

注: プライマリ サーバをこのタスクに使用できなくなった場合は、新しくアクティブにするセカンダリ サーバと競合しないように、プライマリ サーバの電源をオフにしてください。

サービスの停止と自動再起動、およびプライマリ サーバのシャットダウンを行う手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「プライマリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

2. [] > [Failover] サブメニューに移動します。
3. [Configure as Secondary/Inactive] オプションを選択します。
4. 任意のキーを押して [Failover] サブメニューに戻ります。
5. 「R」と入力し、Enter を押して、[Cisco Vision Server Administration] メニューに戻ります。

スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法

6. [Power Off] オプションを選択します。
プライマリ サーバがシャットダウンします。

セカンダリ サーバでのサービスのシャットダウン

セカンダリ サーバでサービスをシャットダウンする手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。
TUI のメイン メニューが表示されます。
2. [Cisco Vision Server Administration] サブメニューに移動します。
3. [Shutdown Dynamic Signage Director software] オプションを選択します。
すべての Cisco Vision Director サービスが停止します。
4. 「R」と入力し、Enter を押して、メニューに戻ります。

セカンダリ サーバの IP アドレスの変更

前提条件

セカンダリ サーバの IP アドレスを変更する前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- プライマリ サーバの IP アドレスが必要です。
- vi エディタの使い方を理解している必要があります。vi エディタの使い方については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバのテキスト ユーティリティ インターフェイス\(93 ページ \)](#)を参照してください。

注:/etc/hosts ファイルに Localhost エントリがあるものの hostname エントリがない場合でも、システムは動作します。ただし、セカンダリの hostname が存在する場合は、セカンダリ サーバの IP アドレスをプライマリ サーバの IP アドレスに一致するように変更する必要があります。

手順

セカンダリ サーバの IP アドレスを変更する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[System Settings] メニューに移動します。
2. [Network Settings] オプションを選択します。
[Network Settings] サブメニューが表示されます。
3. [Setup Network Information] オプションを選択します。
4. [Configure Network] の確認画面で、任意のキーを押して続行します。
[Select Action] 画面が表示され、「Edit Devices」オプションが強調表示されます。
5. Enter キーを押して、選択します。
[Select a Device] 画面が表示され、「eth0」ネットワーク インターフェイスが強調表示されます。

スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法

6. Enter キーを押して、選択します。
[Ethernet Configuration] 画面が表示されます。
注:Linux の画面が誤って [Devernet Configuration] というタイトルになっています。
7. カーソルが [Static IP] アドレスの行に来るまで、Tab キーを押します。
8. Backspace キーを押して行の先頭に移動し、プライマリ サーバの IP アドレスを入力します。
図 2 83 ページの例では、10.0.0.1 になっています。プライマリ サーバの実際の IP アドレスを使用します。
9. [OK] ボタンが強調表示されるまで Tab キーを押して、Enter を押します。
[Select a Device] 画面に戻ります。
10. [Save] ボタンが強調表示されるまで Tab キーを押し、Enter を押します。
[Select Action] 画面に戻ります。
11. [Save&Quit] ボタンが強調表示されるまで Tab キーを押し、Enter を押します。
TUI の [Configure Network] 画面に戻ります。
12. 任意のキーを押して [Network Settings] サブメニューに戻ります。
13. [Edit hosts file] オプションを選択します。
14. 任意のキーを押して編集モードに移ります。
15. このサーバの IP アドレスをプライマリ サーバの IP アドレスに置き換えます。
16. 設定を保存し、次のコマンドを使用して vi を終了します。

:wq

セカンダリ サーバでのネットワーク サービスの再起動

セカンダリ サーバでネットワーク サービスを再起動する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[Services Control] サブメニューに移動します。
2. [Networking] オプションを選択します。
[Networking] サブメニューが表示されます。
3. [Restart networking] オプションを選択します。
ネットワーク デモンが再起動され、IP アドレスの変更がセカンダリ サーバに反映されます。

注:SSH を使用してネットワーク経由でサーバに接続している場合は、セッションが切断されます。プライマリ サーバの IP アドレスを使用して再接続してください。

セカンダリ サーバへのネットワーク接続の確認

セカンダリ サーバへのネットワーク接続を確認する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[Troubleshooting] サブメニューに移動します。
2. [Ping a host] オプションを選択します。
3. 「Enter hostname」のプロンプトで、セカンダリ サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、Enter を押します。

スタンバイ セカンダリ サーバをアクティブ サーバに昇格させる方法

4. PING パケットの正常な送信と受信を確認します。

注: セカンダリ サーバに到達できない場合は、[スイッチの ARP キャッシュのクリア\(87 ページ \)](#)に進みます。

5. PING パケットの送信を停止するには Ctrl + C を押します。
6. 任意のキーを押して [Troubleshooting] メニューに戻ります。

スイッチの ARP キャッシュのクリア

このタスクは任意です。スイッチの ARP キャッシュは 5 ~ 10 分で更新されます。ただし、セカンダリ サーバの IP アドレスを変更した後にセカンダリ サーバにアクセスできない場合は、スイッチで **clear ip arp** 特権 EXEC コマンドを使用してその IP アドレスの ARP キャッシュをクリアしてください。

スイッチの ARP キャッシュをクリアする手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールを使用して、またはスイッチの IP アドレスがわかっている場合は次の例に示すように Telnet を使用して、スイッチにアクセスします。ここで *ip-address* はスイッチのアドレスです。

```
telnet ip-address
```

2. 対応するプロンプトで、次の例に示すようにログイン情報を入力します。ここで *yourname* と *yourpass* は自分のユーザ名とパスワードです。

```
Username: yourname
Password: yourpass
switch>
```

3. **enable** コマンドと対応するパスワードを使用して、特権 EXEC モードに移ります。

```
switch> enable
Password: enablepassword
switch#
```

4. セカンダリ サーバで使用されるようになった、新しく割り当てられた IP アドレスの ARP キャッシュをクリアするには、次の例に示すように **clear ip arp** コマンドを使用します。

```
clear ip arp 10.0.0.1
```

セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director 再起動

セカンダリ サーバで Cisco Vision Director を再起動する手順は次のとおりです。

1. 「セカンダリ サーバ」で次のいずれかの操作を行います。
 - 引き続き TUI にログインしている場合は、メイン メニューに移動します。
 - まだセカンダリ サーバでインストール担当者としてログインしていない場合は、直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、新しい IP アドレスでもう一度ログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

2. [Cisco Vision Server Administration] サブメニューに移動します。
3. [Restart Dynamic Signage Director software] オプションを選択します。

すべての Cisco Vision Director サービスが開始されます。
4. 任意のキーを押して [Cisco Vision Server Administration] サブメニューに戻ります。

プライマリ サーバをアクティブに復元する方法

5. メイン メニューに戻るまで、**R** を押し、Enter を押します。
6. **X** を押して TUI を終了します。

セカンダリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認

セカンダリ サーバで Cisco Vision Director の設定を確認する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して「セカンダリ」サーバの Cisco Vision Director にログインします。
2. Cisco Vision Director のメイン メニューで、[Tools] > [Management Dashboard] に移動します。
3. ダッシュボードのドロワーで、[DMP and TV Controls] > [Monitoring] > [Get Status] を選択します。
DMP と Cisco Vision Director の間で正常に通信が行われていることを確認します。
4. すべてのコンテンツがこのサーバ上にあることを確認します。
5. DMP の制御を確立するには、コンテンツを指定せず、[No Staging] ラジオ ボタンを選択した状態で、スクリプトを起動します。この実行に必要な時間は 10 分未満です。

注:コンテンツを指定してスクリプトをプッシュすることもできますが、ダウンタイムが長くなります。

プライマリ サーバをアクティブに復元する方法

注:このタスクではサービスの中断が必要です。

スケジュール済みのダウンタイムでは、プライマリ サーバをアクティブ サーバとして復元し、通常の動作環境を再度確立して、元のプライマリ サーバを障害からクリーンアップするか、ソフトウェア アップグレードの実行準備をし、IP アドレッシングを変更し、2 つのサーバ間で再度定期的なスケジュールのバックアップを設定します。

注:TUI のメニュー項目を選択するには、メニュー オプションに対応する文字を入力し、Enter を押します。

ここでは、次の作業について説明します。

- [前提条件 \(89 ページ\)](#)
- [セカンダリ サーバでのサービスの停止と自動再起動 \(89 ページ\)](#) (必須)
- [セカンダリ サーバの IP アドレスの変更 \(89 ページ\)](#) (必須)
- [セカンダリ サーバのネットワーク接続の確認 \(90 ページ\)](#) (必須)
- [元のプライマリ サーバでのサービスの開始と設定 \(90 ページ\)](#) (必須)
- [プライマリ サーバへのネットワーク接続の確認 \(91 ページ\)](#) (必須)
- [バックアップ ファイルからのシステム データを使用した元のプライマリ サーバの復元 \(91 ページ\)](#) (適宜)
- [Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動 \(92 ページ\)](#) (復元実行後に必要)
- [元のプライマリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認 \(92 ページ\)](#) (必須)
- [プライマリ サーバソフトウェアのアップグレード \(92 ページ\)](#) (適宜)
- [アップグレード後のバックアップ環境の再設定 \(92 ページ\)](#) (適宜)

前提条件

アクティブ セカンダリ サーバに管理上の変更を加えた場合は、正常なバックアップを実行します。

セカンダリ サーバはまだアクティブですが、バックアップ環境を再設定し、Cisco Vision Director の「管理ダッシュボード」から手動バックアップを実行します。すると、最新のバックアップがプライマリ(非アクティブ)サーバにコピーされます。詳細については、[Cisco Vision Director サーバのバックアップと復元\(69 ページ\)](#)を参照してください。

セカンダリ サーバでのサービスの停止と自動再起動

セカンダリ サーバでのサービスの停止と自動再起動を行う手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、「セカンダリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。
2. [Cisco Vision Server Administration] > [Failover] サブメニューに移動します。
3. [Configure as Secondary/Inactive] オプションを選択します。
4. 任意のキーを押して [Failover] サブメニューに戻ります。
5. 「R」と入力し、Enter を押して、[Cisco Vision Server Administration] メニューに戻ります。
6. [Shutdown Dynamic Signage Director software] オプションを選択します。

セカンダリ サーバの IP アドレスの変更

前提条件

セカンダリ サーバの IP アドレスを変更する前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- セカンダリ サーバの IP アドレスが必要です。
- vi エディタの使い方を理解している必要があります。vi エディタの使い方については、[Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバのテキスト ユーティリティ インターフェイス\(93 ページ\)](#)を参照してください。

手順

セカンダリ サーバの IP アドレスを変更する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[System Settings] メニューに移動します。
2. [Network Settings] オプションを選択します。

[Network Settings] サブメニューが表示されます。
3. [Setup Network Information] オプションを選択します。
4. [Configure Network] の確認画面で、任意のキーを押して続行します。

[Select Action] 画面が表示され、「Edit Devices」オプションが強調表示されます。
5. Enter キーを押して、選択します。

[Select a Device] 画面が表示され、「eth0」ネットワーク インターフェイスが強調表示されます。

プライマリ サーバをアクティブに復元する方法

6. Enter キーを押して、選択します。
[Ethernet Configuration] 画面が表示されます。
注:Linux の画面が誤って [Devernet Configuration] というタイトルになっています。
7. カーソルが [Static IP] アドレスの行に来るまで、Tab キーを押します。
8. Backspace キーを押して行の先頭に移動し、セカンダリ サーバの IP アドレスを入力します。
図 1(82 ページ)の例では、10.0.0.2 になります。セカンダリ サーバの実際の IP アドレスを使用します。
9. [OK] ボタンが強調表示されるまで Tab キーを押して、Enter を押します。
[Select a Device] 画面に戻ります。
10. [Save] ボタンが強調表示されるまで Tab キーを押して、Enter を押します。
[Select Action] 画面に戻ります。
11. [Save&Quit] ボタンが強調表示されるまで Tab キーを押し、Enter を押します。
TUI の [Configure Network] 画面に戻ります。
12. 任意のキーを押して [Network Settings] サブメニューに戻ります。
13. [Edit hosts file] オプションを選択します。
14. 任意のキーを押して編集モードに移ります。
15. このサーバの IP アドレスをセカンダリ サーバの IP アドレスに置き換えます。
16. 設定を保存し、次のコマンドを使用して vi を終了します。

:wq

セカンダリ サーバのネットワーク接続の確認

セカンダリ サーバへのネットワーク接続を確認する手順は次のとおりです。

1. セカンダリ サーバの TUI メイン メニューで、[Troubleshooting] サブメニューに移動します。
2. [Ping a host] オプションを選択します。
3. 「Enter hostname」のプロンプトで、セカンダリ サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、Enter を押します。
4. PING パケットの正常な送信と受信を確認します。
注:セカンダリ サーバに到達できない場合は、[スイッチの ARP キャッシュのクリア\(87 ページ \)](#)に進みます。
5. PING パケットの送信を停止するには **Ctrl + C** を押します。
6. 任意のキーを押して [Troubleshooting] メニューに戻ります。

元のプライマリ サーバでのサービスの開始と設定

元のプライマリ サーバでサービスの開始と設定を行う手順は次のとおりです。

1. 元の「プライマリ」サーバの電源を入れます。
注:サーバが起動して SSH が使用できるようになるまでに数分かかる場合があります。

プライマリ サーバをアクティブに復元する方法

2. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、元の「プライマリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。
TUI のメイン メニューが表示されます。
3. [Cisco Vision Server Administration] > [Failover] サブメニューに移動します。
4. [Promote as Primary/Active] オプションを選択します。
Cisco Vision Director のサービスが開始され、同時に、再起動時に自動的に起動するように設定されます。
5. 任意のキーを押して [Failover] サブメニューに戻ります。
6. 元のプライマリの Cisco Vision Director サーバでスクリプトが実行されている場合は、スクリプトを終了します。

プライマリ サーバへのネットワーク接続の確認

プライマリ サーバへのネットワーク接続を確認する手順は次のとおりです。

1. 元の「プライマリ」サーバの TUI メイン メニューで、[Troubleshooting] サブメニューに移動します。
2. [Ping a host] オプションを選択します。
3. 「Enter hostname」のプロンプトで、プライマリ サーバのホスト名または IP アドレスを入力し、Enter を押します。
4. PING パケットの正常な送信と受信を確認します。
注: セカンダリ サーバに到達できない場合は、[スイッチの ARP キャッシュのクリア\(87 ページ \)](#)に進みます。
5. PING パケットの送信を停止するには **Ctrl + C** を押します。
6. 任意のキーを押して [Troubleshooting] メニューに戻ります。
7. メイン メニューに戻るまで、**R** を押し、Enter を押します。
8. **X** を押して TUI を終了します。

バックアップ ファイルからのシステム データを使用した元のプライマリ サーバの復元

他のサーバへのフェールオーバー中に、システムに対して管理上の変更を加えた場合は、セカンダリからバックアップを復元します。

注: この手順では、プライマリ サーバを再度有効化する前に、セカンダリ サーバからプライマリへのバックアップを実行しておく必要があります。

バックアップ ファイルからのシステム データを使用して元のプライマリ サーバを復元する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して元の「プライマリ」サーバの Cisco Vision Director にログインします。
2. Cisco Vision Director のメイン メニューで、[Tools] > [Management Dashboard] に移動します。
3. [Dashboard] ドロワーで、[Tools] > [Advanced] > [Restore system data from backup] を選択します。
4. 復元するコンポーネントを選択します。
5. 復元に使用するバックアップ ファイルの日付を選択します。
6. [Apply] をクリックします。復元が開始されます。

Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動

Cisco Vision Director サーバで何らかの復元を実行した後は、Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動してサービスの通常の運用を再開します。

Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動する手順は次のとおりです。

1. 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、元の「プライマリ」サーバでインストール担当者として TUI にログインします。

TUI のメイン メニューが表示されます。

2. [Cisco Vision Server Administration] > [Restart Cisco Vision Director Software] に移動します。
3. メイン メニューに戻るまで、**R** を押し、Enter を押します。
4. **X** を押して TUI を終了します。

元のプライマリ サーバでの Cisco Vision Director の設定の確認

元のプライマリ サーバで Cisco Vision Director の設定を確認する手順は次のとおりです。

1. 管理者アカウントを使用して元の「プライマリ」サーバの Cisco Vision Director にログインします。
2. Cisco Vision Director のメイン メニューで、[Tools] > [Management Dashboard] に移動します。
3. ダッシュボードのドロワーで、[DMP and TV Controls] > [Monitoring] > [Get Status] を選択します。

DMP と Cisco Vision Director の間で正常に通信が行われていることを確認します。

4. すべてのコンテンツがこのサーバ上にあることを確認します。
5. 管理ダッシュボードでステータスを表示して、システムをテストします。
6. テスト スクリプトを実行してシステムの動作を確認します。

プライマリ サーバソフトウェアのアップグレード

注: このタスクは、『[Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director Release 6.1](#)』の手順に従って冗長サーバでソフトウェア アップグレードを実行する場合にのみ必要です。

「セカンダリ」サーバでソフトウェアをアップグレードした後、元の「プライマリ」サーバをアクティブ状態に復元したら、プライマリ サーバソフトウェアをアップグレードします。

アップグレード後のバックアップ環境の再設定

セカンダリとプライマリの両方のサーバについてソフトウェアのアップグレードが完了したら、「セカンダリ」サーバでバックアップ アカウントを再度有効にし、「プライマリ」サーバで自動のバックアップと復元を設定するよう、バックアップ環境を再設定します。詳細については、[Cisco Vision Director サーバのバックアップと復元\(69 ページ\)](#)を参照してください。